

第2回出雲市東部都市拠点地区活性化協議会

と き 平成22年8月10日 15:00～

ところ 平田商工会議所 2階 大会議室

1. 開会

事務局より、島根県出雲県土整備事務所の佐野所長が宮川治所長に、JAいずもの大谷東部ブロック長が江角正喜東部ブロック長に、それぞれ替わられたことを説明。

また、オブザーバーとして木綿街道振興会の來間久氏、平田本町商店街振興組合の平野裕二氏、愛宕山動物公園整備に関して松浦誠氏が出席されていることを説明。

2. 会長あいさつ

本日発行の「サライ（小学館）」に木綿街道が掲載されている。こうしたメディアに取り上げられる機会がどんどん増えることを期待している。

議題に掲げた事項について皆様から忌憚のないご意見をお願いしたい。

3. 議事

(1) まちづくり交付金事業の現況について

出雲市まちづくり推進課より説明。

平田地域における事業は平成19年度から23年度までの5カ年の計画であり、現在、「木綿街道グレードアップ事業」として美装化および案内看板の設置、建物修景等を実施しているほか、愛宕山公園ではトイレ設置や園の整備を、本町通りでは街路整備やベンチの設置を予定している。

また、都市計画道路「元町中の島線」の整備、市内情報板（案内図等）の整備、市立総合医療センター改修に併せて「竿井手通り線」の歩道整備を実施することになっている。

(2) 商店街等の取り組みについて

來間久氏（木綿街道振興会事務局）より、木綿街道の取り組みについて説明。

当会では、街並み整備やボランティア観光ガイドといった活動に加え、昨年10月と本年5月のイベントに併せて旧石橋酒造の清掃活動を行っており、イベントだけでなく会議等にも利用できるようになった。

今年度は、国交省の外郭団体である（社）住まい・まちづくり担い手支援機構補助金の採択を受け、旧石橋酒造の清掃活動、建物調査、専門家を招いての勉強会、活用実験等を行う予定にしている。

今月8日までは「City Switch 2010」のワークショップで、建築を学ぶ東京やシドニーの学生等が空間を使った創作活動を行ったので、ぜひ観ていただきたい。

平野裕二氏（平田本町商店街振興組合理事長）より、平田本町通り商店街の取り組みについて説明。

平成16年7月に平田市TMO構想策定委員会のワークショップで、平田が他に誇れる

「平田一式飾」を活用しない手はない、との意見が出、商店街として一式飾を活用した活性化に取り組むようになった。

店舗のショーウィンドウへの展示や以前桃山町にあった展示館の作品を商店街に移設したほか、平成18年7月には「第1回一式飾祭り」を開催し、空店舗を活用した「一式飾交流館」で全国一式飾・造りものマップ展示やオリジナル商品の販売を行った。

昨年度、空店舗に「平田一式飾ほんまち展示館」を開設し、これまで1日も休むことなく常設展示している。また、大型スーパー撤退に伴う買物難民対策として「ほんまちプラザ」をオープンし、週1日短時間ではあるが木曜ごちそう市を実施し地元住民（主に高齢者）に喜ばれているところであるが、冷房設備がなく夏場は営業できないでいる。

事務局より、本町通りへの駐車帯設置について説明。

本町通りは、車道片側5m、歩道片側5m、計20mという幅員であるが、駐車場不足、商店街の売上減少、警察の取り締まり強化等により、地元から駐車帯設置の要望があり、商工会議所として昨年12月に出雲市に対して要望を行ったところである。

本町商店街では、地元が中心となり、国交省社会実験として「平田本町商店街まるごと道の駅的利活用実験」を2度にわたって実施されたところである。同事業は、車道片側を駐車場として利用し、もう片方を一方通行にして来街者の利便を図るというものである。

本町通りの休日12時間の交通量は、平成6年に6,394台あったものが平成20年には3,060台に激減しており、その結果を踏まえて出雲警察署、出雲県土整備事務所、出雲市等と協議を行ってきたが、関係法令等に照らしたところ、交差点やバス停、消火栓等を避けると殆どスペースが確保できないという状況であり、駐車帯の設置は困難であるとの結論に至った。

(3) 愛宕山動物公園の整備について

松浦誠氏より、愛宕山公園の整備・観光振興策の提案について説明。

山頂からの眺望、かつて桜並木の名所であった愛宕山の復興を願って、本日出席させていただいた。

以前は山頂から市街地が一望でき、昭和20年代から植樹が始まった桜並木は市場まで続いていたが、県道小伊津港線の整備によって姿を消してしまった。公園には雑木が生い茂り、正面から上ることすらできないような薄暗い状況となっている。今年、平田地域に初めて樹木医が誕生したので、伐採、植樹が行われれば、地元住民が中心となって消毒や追肥、除草といった管理をやっていきたい。

今後、平田地域の高齢化率は益々高くなることが予想されることから、きちんと公園が整備されることで近在のお年寄りや子供と一緒に楽しめる場所として後世に大きな財産を残せるのではないかと考えている。

出雲市都市計画課より説明。

愛宕山公園整備については、平田地区まちづくり懇談会での意見や市議会での飯塚議員の質問もあったように、地元でも非常に強い関心を持たれており感謝している。

愛宕山公園は22.3haあり市内でも最大の総合公園である。国の補助金による公園

整備は市民1人当たりの都市公園面積を基準に行うことになるが、現在、出雲市民1人当たり約11㎡であり、国の基準10㎡に当たらない（浜山公園が大きいため）。

平成19年度からまちづくり交付金事業により、山頂展望台の伐採、トイレの水洗化等に約2,000万円を掛けたところである。また、昨年度創設された国の都市公園安全安心対策緊急総合支援事業で子供広場の遊具の更新等を実施することとしている。

これまでまちづくり交付金事業や都市公園安全安心対策緊急総合支援事業では対応できなかった動物公園部分について、新政権下での一括交付金化による社会資本整備総合交付金事業では、基幹事業の20%枠内で効果をより促進させるものに活用できているので、それを適用したいと考えている。

出来るだけ地元の声を反映させるため、町内会、土木委員、指定管理者であるたてぬい建設事業協同組合等を含む約15人程度のワークショップを開催して今後の整備の参考にさせていただきたいと考えている。

山崎委員（たてぬい建設事業協同組合専務理事）より説明。

愛宕山公園では、ゴールデンウィークに動物ふれあい祭りを開催しており、出雲農林高校の移動動物園やカンガルーの柵を取り払う等の取り組みを行った。また、来場者を対象としたアンケートを実施したが、愛宕山公園の魅力としては、①動物がいる、②や子供と遊べる、③桜がキレイという結果が得られ、やはり多くの人が動物公園として認識していることが伺えた。一方で、動物の種類が少ない、駐車場が少ないといった意見もあった。

公園整備を進めるにあたっては、まず全体のランドデザインをしっかりと作ることが大切であると考えており、予算が付いたから修繕するといったことでは、効果的な整備は望めない。国の補助金を活用しようとするれば制約もあるが、民間の知恵と方法、資金調達をして、良いものを残しながら新しい公園にできればと思う。

地すべり対策については手付かずの状態となっており、正面石段も崩れかかっている。また、野球場の活用も考えなければいけないが、プロ野球2軍戦が開催できないか関係者に見てもらったところ、グラウンド整備が不十分で試合はできないとのことであった。

全体を総合的に整備すれば、かなり魅力的な公園にできると確信しているし、民間の力を活用すれば短期間で実現できると思っている。

立石委員より、山陰合同銀行グループで植林・伐採活動を行っており、平田支店を通じて協力依頼したことを説明。

4. その他

立石委員より、中ノ島ニューシティプラザの活用について説明。

河下港での海上自衛隊の艦艇広報が実施されるようになり、割烹温泉ゆらりでの入浴が大変喜ばれているところであるが、陸上自衛隊出雲駐屯地、自衛隊島根地方協力本部・航空自衛隊高尾山分屯基地との間で施設利用に関する優待契約を結んだところである。現在航空自衛隊美保基地・陸上自衛隊米子駐屯地とも同様の話を進めている。

事務局より、一畑電車デハニ50形の活用について説明。

5月の木綿街道イベントに併せて実施した、雲州平田駅での「デハニ50形特別展示」には220名が訪れ、うち46名がアンケート調査に協力いただいた。また、5月29日から毎週末、平田物産協会による特産品販売が行われており、8月1日までに約70万円を売り上げている。

立石委員より、「我が街平田の自慢」について説明。

平田地域が他に誇れるものを五十音順に列挙したものをお配りしたが、多少無理のあるものもあると思う。多くの人に平田への愛着を持ってもらったり、タクシーが観光客を乗せた時に平田を自慢するツールとして役立ててもらいたいとの思いから作成したもので、ぜひ皆様それぞれにお考えいただくとともにご活用いただきたい。

その他、次のような意見が出された。

- ・当協会の役割と機能
- ・まちづくりのはっきりしたランドデザインづくり
- ・湯谷川改修工事の時期と、それに伴う駅通りの改修の可能性
- ・中心市街地活性化への農業分野の協力
- ・出雲縁結び空港―雲州平田駅間の直通「レイルウェイズ探訪バス」運行
- ・一畑電車デハニ50形の体験運転の実施
- ・一畑電車雲州平田駅前への観光案内看板の設置
- ・アートとしての平田一式飾の大学等への周知
- ・本町商店街と木綿街道との連携強化
- ・旧平田船川の清掃・浄化
- ・旧石橋酒造の早急な活用検討

出雲市が取得する期限が来年3月に迫っている旧石橋酒造については、ここ2年間程度集中的な議論・検討が必要である。また、その他のテーマについては、今後ワークショップという形で検討を進めたい。

5. 閉会